



2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年11月1日
東

上場会社名 荒川化学工業株式会社 上場取引所
 コード番号 4968 URL <https://www.arakawachem.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 宇根 高司
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 宮下 泰知 (TEL) 06-6209-8500
 四半期報告書提出予定日 2019年11月13日 配当支払開始予定日 2019年12月2日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第2四半期の連結業績(2019年4月1日~2019年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	36,558	△7.5	920	△51.4	1,142	△48.5	454	△68.1
2019年3月期第2四半期	39,501	△1.0	1,896	△28.8	2,216	△22.0	1,425	△30.9

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 5百万円(△99.3%) 2019年3月期第2四半期 837百万円(△70.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	22.13	—
2019年3月期第2四半期	69.06	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第2四半期	88,313	55,256	60.8
2019年3月期	92,174	56,326	59.4

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 53,713百万円 2019年3月期 54,747百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	20.00	—	22.00	42.00
2020年3月期	—	22.00	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	22.00	44.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日~2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	73,000	△8.2	2,600	△27.1	2,900	△26.6	1,750	△55.0	86.17

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) — 、除外 1社(社名) 香港荒川ケミカル社

(注) 詳細は、添付資料10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)」をご覧ください。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

- (4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期2Q	20,652,400株	2019年3月期	20,652,400株
② 期末自己株式数	2020年3月期2Q	324,251株	2019年3月期	13,251株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期2Q	20,536,891株	2019年3月期2Q	20,639,149株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	10
(会計方針の変更)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間の世界経済は、アジアおよび欧州の中では弱さが見られ、国内経済は、輸出や生産の弱さが続いており、激化する米中貿易摩擦をはじめとする通商問題が世界経済に深刻な影響を与えております。

このような環境のもと、当社グループにおきましては、2016年度よりスタートしました第4次中期5ヵ年経営計画の方針（「事業の新陳代謝」や「真のグローバル化」など）に沿った重点施策を進め、事業の拡大や収益性の向上、事業開発の促進に注力してまいりました。しかしながら、米中貿易摩擦による影響など需要環境が大きく悪化し、業績面では、電子部品向け材料の需要が大きく減少したことに加え、諸コストの増加が収益に大きく影響しました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は365億58百万円(前年同期比7.5%減)、営業利益は9億20百万円(同51.4%減)、経常利益は11億42百万円(同48.5%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は4億54百万円(同68.1%減)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

なお、セグメント区分の売上高はセグメント間の内部売上高を含んでおりません。

<製紙薬品事業>

製紙業界は、eコマース市場（電子商取引）の世界的な成長に伴い、段ボール原紙など板紙の需要は堅調に推移したものの、国内では輸出の減少や天候の影響による需要不振がありました。このような環境のもと、当事業におきましては、国内での板紙向け紙力増強剤や塗工紙用薬品の販売が減少しました。利益面では、海外での収益性の改善により増益となりました。

その結果、売上高は97億15百万円(前年同期比5.0%減)、セグメント利益は1億93百万円(同16.5%増)となりました。

<コーティング事業>

電機・精密機器関連業界は、車載向け電子部品の需要が鈍化し、スマートフォン向けは引き続き低調でした。また、印刷インキ業界では出版・広告分野で市場の縮小が続いております。このような環境のもと、当事業におきましては、機能性コーティング材料用の熱硬化型樹脂の販売は堅調に推移しましたが、主力の光硬化型樹脂が大幅に減少しました。

その結果、売上高は79億円(前年同期比12.3%減)、セグメント利益は4億17百万円(同17.1%減)となりました。

<粘接着事業>

粘着・接着剤業界は、世界的に紙おむつ向け接着剤の需要増加が継続しており、粘着性付与剤の供給能力も増強されています。このような環境のもと、当事業におきましては、水素化石油樹脂は、生産拠点を置くドイツのコンビナートが再度停止したことに伴う原材料コスト上昇や、定期修理での生産停止が重なり、収益が悪化しました。また、ロジン系の粘着・接着剤用樹脂の販売が大幅に減少しました。

その結果、売上高は130億54百万円(前年同期比7.4%減)、セグメント利益は5億61百万円(同50.4%減)となりました。

<機能性材料事業>

電子工業業界は、スマートフォン市場の減速に加え、激化する米中貿易摩擦の影響などにより電子部品の需要が低下しました。このような環境のもと、当事業におきましては、ファインケミカル製品の販売は増加しましたが、電子材料用配合製品および精密研磨剤、スマートフォン関連の販売は減少しました。

その結果、売上高は57億32百万円(前年同期比4.7%減)、セグメント利益は1億94百万円(同52.8%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債および純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ38億61百万円減少し、883億13百万円となりました。主な要因は、有形固定資産が47億29百万円増加した一方、現金及び預金が19億70百万円、受取手形及び売掛金が53億26百万円、たな卸資産が20億69百万円減少したことによります。

負債は、短期借入金が14億48百万円増加した一方、支払手形及び買掛金が34億66百万円、未払法人税等が4億51百万円減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べ27億90百万円減少し、330億57百万円となりました。

純資産は、自己株式を取得したことなどにより、前連結会計年度末に比べ10億70百万円減少し、552億56百万円となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ19億68百万円減少し、70億2百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、45億19百万円の増加となりました。これは、仕入債務が減少（33億82百万円）した一方、税金等調整前四半期純利益（10億52百万円）、減価償却費（13億23百万円）、売上債権の減少（54億23百万円）、たな卸資産の減少（18億88百万円）などにより資金が増加した結果であります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、59億92百万円の減少となりました。これは、固定資産の取得による支出（59億18百万円）が主なものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、3億77百万円の減少となりました。これは、短期借入金が増加（15億23百万円）した一方、自己株式の取得による支出（4億39百万円）および配当金の支払（4億54百万円）が主なものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年5月9日に公表しました2020年3月期の通期業績予想を修正しております。詳細につきましては、2019年10月25日に発表しております「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

(参考)

2020年3月期通期連結業績予想数値の修正（2019年4月1日～2020年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	82,000	4,300	4,600	3,000	145.35
今回修正予想 (B)	73,000	2,600	2,900	1,750	86.17
増減額 (B - A)	△9,000	△1,700	△1,700	△1,250	—
増減率 (%)	△11.0	△39.5	△37.0	△41.7	—
(ご参考) 前期実績 (2019年3月期)	79,501	3,564	3,950	3,890	188.50

※ 当第2四半期累計期間における自己株式の取得により、期中平均株式数が102,258株減少しております。1株当たりの予想当期純利益の算出につきましては、当該減少分および期末までの減少予想分を含めて計算した予想期中平均株式数に基づき算出しております。

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,061	7,091
受取手形及び売掛金	27,069	21,742
電子記録債権	1,969	1,665
商品及び製品	9,508	8,185
仕掛品	1,006	826
原材料及び貯蔵品	7,311	6,745
その他	1,143	2,501
貸倒引当金	△114	△103
流動資産合計	56,956	48,655
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	7,684	7,800
機械装置及び運搬具（純額）	5,956	5,818
土地	5,140	5,142
建設仮勘定	5,937	10,668
その他（純額）	549	568
有形固定資産合計	25,268	29,998
無形固定資産		
のれん	543	402
その他	398	437
無形固定資産合計	941	840
投資その他の資産		
投資有価証券	7,261	6,968
退職給付に係る資産	1,105	1,160
繰延税金資産	305	300
その他	386	355
貸倒引当金	△66	△64
投資その他の資産合計	8,991	8,720
固定資産合計	35,201	39,558
繰延資産		
開業費	17	99
繰延資産合計	17	99
資産合計	92,174	88,313

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,178	8,712
短期借入金	5,454	6,902
未払法人税等	752	301
未払消費税等	142	110
賞与引当金	1,222	1,180
役員賞与引当金	60	15
修繕引当金	105	—
設備関係支払手形	111	168
その他	4,825	4,692
流動負債合計	24,853	22,082
固定負債		
社債	5,000	5,000
長期借入金	3,895	3,865
繰延税金負債	1,186	1,168
修繕引当金	—	15
退職給付に係る負債	305	312
資産除去債務	330	324
その他	276	288
固定負債合計	10,994	10,974
負債合計	35,848	33,057
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,343	3,343
資本剰余金	3,564	3,564
利益剰余金	44,153	44,138
自己株式	△13	△452
株主資本合計	51,047	50,593
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,796	2,582
為替換算調整勘定	727	380
退職給付に係る調整累計額	175	157
その他の包括利益累計額合計	3,699	3,120
非支配株主持分	1,579	1,542
純資産合計	56,326	55,256
負債純資産合計	92,174	88,313

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
売上高	39,501	36,558
売上原価	30,737	28,922
売上総利益	8,764	7,636
販売費及び一般管理費	6,867	6,715
営業利益	1,896	920
営業外収益		
受取利息	9	15
受取配当金	103	114
不動産賃貸料	56	49
為替差益	144	—
受取保険金	—	146
その他	116	56
営業外収益合計	430	382
営業外費用		
支払利息	80	79
為替差損	—	41
その他	29	39
営業外費用合計	110	161
経常利益	2,216	1,142
特別利益		
固定資産売却益	5	0
投資有価証券売却益	7	21
受取保険金	63	—
為替換算調整勘定取崩益	—	7
特別利益合計	75	29
特別損失		
固定資産除売却損	34	13
出資金売却損	—	15
操業休止関連費用	—	91
特別損失合計	34	119
税金等調整前四半期純利益	2,258	1,052
法人税、住民税及び事業税	473	309
法人税等調整額	186	95
法人税等合計	659	405
四半期純利益	1,599	647
非支配株主に帰属する四半期純利益	174	192
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,425	454

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	1,599	647
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△140	△214
為替換算調整勘定	△575	△409
退職給付に係る調整額	△46	△17
その他の包括利益合計	△762	△641
四半期包括利益	837	5
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	734	△124
非支配株主に係る四半期包括利益	102	130

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,258	1,052
減価償却費	1,319	1,323
のれん償却額	140	140
貸倒引当金の増減額(△は減少)	1	△9
賞与引当金の増減額(△は減少)	△105	△40
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△44	△45
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△2	7
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	△198	△55
投資有価証券売却損益(△は益)	△7	△21
出資金売却損益(△は益)	—	15
固定資産除売却損益(△は益)	29	13
為替換算調整勘定取崩益	—	△7
操業休止関連費用	—	91
受取保険金	△63	—
受取利息及び受取配当金	△113	△129
支払利息	80	79
売上債権の増減額(△は増加)	923	5,423
たな卸資産の増減額(△は増加)	△97	1,888
仕入債務の増減額(△は減少)	△291	△3,382
未払消費税等の増減額(△は減少)	32	92
その他	△291	△1,058
小計	3,570	5,376
利息及び配当金の受取額	119	129
利息の支払額	△98	△58
保険金の受取額	132	—
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△688	△928
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,035	4,519
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(△は増加)	△7	—
有形固定資産の取得による支出	△2,871	△5,852
有形固定資産の売却による収入	65	10
投資有価証券の取得による支出	△17	△23
投資有価証券の売却による収入	9	30
無形固定資産の取得による支出	△25	△66
繰延資産の取得による支出	—	△82
投資その他の資産の増減額(△は増加)	2	1
その他	△32	△9
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,877	△5,992

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△169	1,523
長期借入れによる収入	300	—
長期借入金の返済による支出	△358	△30
自己株式の取得による支出	△0	△439
非支配株主への払戻による支出	—	△173
配当金の支払額	△392	△454
非支配株主への配当金の支払額	—	△0
その他	—	△804
財務活動によるキャッシュ・フロー	△619	△377
現金及び現金同等物に係る換算差額	△161	△117
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△623	△1,968
現金及び現金同等物の期首残高	8,404	8,970
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,781	7,002

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

当第2四半期連結会計期間において、当社の特定子会社であった香港荒川ケミカル社は、清算終了したため、連結の範囲から除外しております。

(会計方針の変更)

当社グループの一部の海外連結子会社は、第1四半期連結会計期間より、国際財務報告基準第16号「リース」(以下「IFRS第16号」という。)を適用しております。これにより、リースの借手は、原則としてすべてのリースを連結貸借対照表に資産及び負債として計上することとしました。IFRS第16号の適用については、経過措置として認められる本基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しております。

なお、当該会計基準の適用による四半期連結財務諸表に及ぼす影響は軽微であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	製紙薬品	コーティング	粘接着	機能性材料	計		
売上高							
外部顧客への売上高	10,222	9,008	14,102	6,016	39,349	151	39,501
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	21	21
計	10,222	9,008	14,102	6,016	39,349	173	39,523
セグメント利益	166	503	1,132	411	2,213	16	2,229

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険、不動産仲介等を含んでおります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,213
「その他」の区分の利益	16
全社費用の配賦差額(注)1	△23
コーポレート研究開発費用(注)2	△165
営業外損益(注)3	△144
四半期連結損益計算書の営業利益	1,896

(注) 1 全社費用の配賦差額は、主に報告セグメントに予定配賦した一般管理費の差額であります。

2 コーポレート研究開発費用は、中長期での成長の源泉となる、報告セグメントに配賦しない新規研究開発費用であります。

3 営業外損益は、主に報告セグメントに計上されている営業外損益項目であります。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	製紙薬品	コーティング	粘接着	機能性材料	計		
売上高							
外部顧客への売上高	9,715	7,900	13,054	5,732	36,402	155	36,558
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	12	12
計	9,715	7,900	13,054	5,732	36,402	167	36,570
セグメント利益	193	417	561	194	1,367	16	1,383

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険、不動産仲介等を含んでおります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,367
「その他」の区分の利益	16
全社費用の配賦差額(注) 1	△50
コーポレート研究開発費用(注) 2	△147
営業外損益(注) 3	△264
四半期連結損益計算書の営業利益	920

(注) 1 全社費用の配賦差額は、主に報告セグメントに予定配賦した一般管理費の差額であります。

2 コーポレート研究開発費用は、中長期での成長の源泉となる、報告セグメントに配賦しない新規研究開発費用であります。

3 営業外損益は、主に報告セグメントに計上されている営業外損益項目であります。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。